

## 投稿要領 (2017年3月31日改訂)

1. 「Laguna (汽水域研究)」は汽水域研究会の会誌であり、年1回以上発行する。受理済み論文はオープンファイルとして汽水域研究会ホームページ上で公開する。
2. 本会誌には誰でも投稿することができるが、投稿原稿の筆頭著者あるいは責任者 (corresponding author) が本会会員でない場合には、会費と同額の投稿料を徴す。ただし、依頼原稿はこの限りではない。なお、責任著者が筆頭著者と異なる場合は、責任著者名の前に「\*」を付して明示することとする。
3. 投稿者は研究会の定める投稿規程並びに執筆要領に従って原稿を作成するものとする。
4. 掲載の可否については、関連する専門家の査読を経た後に、編集委員会が決定する。

## 投稿規程 (2024年10月27日改訂)

### 1. 投稿原稿の種類

汽水域およびそれと密接に関連する分野の論文、総説、短報、報告・資料、口絵、寄稿・記事とする。ただし、編集委員会が特に必要と認めた場合には、この限りではない。

(a) 論文：独創的研究の論文で、汽水域に関する新しい事実や価値ある内容を含むもの、あるいは新技術を含む未発表のものとする。

(b) 総説：汽水域に関する専門分野の既存の研究成果、現況、今日の問題点、将来展望などを文献などにより総括し、解説したもの。全体としてひとつのまとまった主張が展開されている未発表のものとする。

(c) 短報：断片的あるいは萌芽的な研究ではあるが、新しい事実や価値ある内容を含むもの、あるいは速報的内容として価値のあるデータを含む、未発表の比較的短い論文とする。

(d) 報告・資料：価値ある観測、観察、実験のデータあるいは結果などで、未発表のものとする。

(e) 口絵：汽水域の様々な自然現象や人の営みの結果生じた事象などの未公表の写真とその解説。

(f) 寄稿・記事：上記に分類できない原稿で、汽水域に関連する情報の提供や紹介、解説、メッセージ、書評など、汽水域研究の進展に役立つ内容を含むものとする。掲載可否は編集委員会が決める。

### 2. 用語と制限ページ

投稿原稿の用語は日本語または英語とし、日本語の場合は表及び図の説明文には英語を併記する。出版物の1ページは、横書き1行23字、

46行の2段組(約2,100字)を基本とし、論文、総説、報告・資料は20ページ以内、短報、寄稿・記事は6ページ以内、口絵は2ページ以内を目安とする。

### 3. 投稿原稿の作成

原稿の本文、図表、引用文献などの形式は、別に定める執筆要領に従うこと。

### 4. 原稿の投稿

#### (a) 電子投稿

PDF原稿と投稿票を、電子メールに添付し、編集委員会宛てに送付すること。電子メールの使用が困難な場合は、CD等の電子媒体での投稿も受け付ける。

#### (b) 受付通知

送付された原稿は、会誌の掲載対象と合致するか、投稿規程に沿って作成されているかを審査される。この審査結果は原則として2週間以内に編集委員会より送付される。その際、図表等について解像度の高いファイルの提出を求めることがある。期間を過ぎても審査結果が到着しない場合には、編集委員長に連絡すること。

### 5. 原稿の査読

受け付けられた原稿は、編集委員を含む複数の専門家による査読を受け、編集委員会により掲載の可否が判断される。査読の結果、修正を要すると判断された場合には、編集委員会はその内容を著者に伝え、修正を求める。修正原稿または査読結果への反論は、原則として3ヶ月以内に再投稿されなければならない。特別の理由なく再投稿が3ヶ月を経過した場合にはその原稿は著者が取り下げたものと判断される。なお、著者は2名までの希望する査読者と、回避したい査読者の通知を求められることがある。但し、査読者の決定は編集委員会が行い、著者から提供された情報は公開しないものとする。

### 6. 原稿の受理

編集委員会が掲載可と判断した日をもって、その原稿の受理日とする。

### 7. 掲載用原稿および論文情報の提出

編集委員会より受理通知を受け取った後、著者は編集委員会により指示されたファイル形式の掲載用原稿と十分な解像度の図、並びにJ-stage登録用情報記入ファイルを提出すること。

### 8. 掲載原稿の著作権

(a) 本誌に掲載された原稿の著作権は汽水域研究会に帰属する。

(b) 汽水域研究会による著作権の行使は、電子化およびウェブ上での公開を含む。

(c) 本誌に原稿を投稿する者は、著作権に関する

条項を事前に承諾したものとみなす。

#### 9. 校正

著者校正は、原則として初校に対して1回限り行う。この際、組み付け上の誤り以外の修正、加筆、削除等は原則として認めない。

## 執筆要領 (2017年3月31日改訂)

1.原稿はA4の大きさの用紙を用い、1行40文字(半角80文字)、1ページ35行、上下のマージンを2.5cm以上空けること。

2.数字はアラビア数字、生物和名はカタカナを用い、学名はイタリック体とする。時間、濃度、速度などを表す場合にはSI単位を用いること。ただし、容量単位はリットル(l)あるいは立方メートル(m<sup>3</sup>)を用いることを原則とする。原稿には丸付き数字や単位などの複合記号などの特殊文字を用いないこと。句読点は「、」「.」とし、本文あるいは引用文献中の年号は半角とし、日本語の場合は全角の括弧を用い、英語の場合は括弧の前後に半角のスペースをとること。

3.投稿原稿の構成は以下の通りとする。

日本語原稿の場合：表題、著者名・所属、英文表題、英文著者名・所属、英文摘要(Abstract200語程度)、英文キーワード(5語以内)、本文、謝辞、引用文献、図表の説明文一覧。なお、責任著者が筆頭著者と異なる場合は、責任著者名の前に「\*」を付して明示する。英語原稿の場合：表題、著者名・所属、キーワード、本文、謝辞、引用文献、図表の説明文一覧。

原稿の1ページ目は表紙とし、その上半分には表題から英文所属までを書く。原稿2ページ目には摘要とキーワードを書き、本文は3ページ目から始める。表紙を含めた通しページ番号を、用紙の右上に記入すること。

4.本文中での文献の引用は次の例に従う。また、著者が3名以上のものについては、「…ほか」または「…et al.」とする。

(引用の記載例)

…山田・松井(1993)宍道湖・中海の藻類について…

…and Heck et al. (2000) state that this may have arisen from …

…植物生態学分野について記述している(吉田, 1992; 佐藤, 1993)。

5.引用文献は謝辞の次にアルファベット順にまとめ、各文献は次の記載例に従う。雑誌名については、和文誌の場合には省略せずに記し、英文誌の場合には省略名を用いてもよい。省略方法はそれぞれの雑誌の慣用に従うこと。ウェブページの引用も可とするが、なるべく避けることが望ましい。

(論文記載例)

岩崎敬二(2007)日本に移入された外来海洋

生物と在来生態系や産業に対する被害について。日本水産学会誌, 73:1121-1124.

高村典子・中川恵・若菜勇・五十嵐聖貴・辻むね(2007)達古武沼の水質特性および水質分布に影響する要因について。陸水学雑誌, 68:81-95.

Perkins,R.G. and Underwood,G.J.C. (2002) Partial recovery of a eutrophic reservoir through managed phosphorus limitation and unmanaged macrophyte growth. *Hydrobiologia*, 481:75-87.

(単行本記載例)

大石圭一編(1993)海藻の科学。朝倉書店, 201p.

鷺谷いづみ・矢原徹一(1996)保全生態学入門。文一総合出版, 270p.

Scheffer,M. (1998) Ecology of shallow lakes. Kluwer Academic Publishers, Dordrecht, 357p.

Wehr, J.D., Shearh, R.G., Kociolec, P. and Thorp, J.H. (2002) Freshwater Algae of North America: Ecology and Classification (Aquatic Ecology). Academic Press, California, 917p.

(単行本の章の記載例)

佐々木克之(2008)有明海・八代海とその流入河川。宇野木早苗・山本民次・清野聡子編「川と海—流域圏の科学—」。pp.190-199. 築地書館。

Dalby,D.H. (1987) Salt marshes. In: Biological surveys of estuaries and coasts, (eds.) Baker,J.M. and Wolff,W.J. pp.38-80. Cambridge University Press, Cambridge.

(ウェブページの記載例)

Convention on Biological Diversity (2009) COP 9 Decisions,

<http://www.cbd.int/doc/decisions/cop-09/full/cop-09-dec-en.doc> (2009年1月時点)。

(独)農林水産消費安全技術センター(2009)登録農薬有効成分の魚毒性・毒性一覧, <http://www.acis.famic.go.jp/toroku/dokusei.htm> (2009年1月時点)。

6.写真は図として取り扱う。扱いはすべて図に準じ、図と同一の通し番号を使用する。また、図(写真を含む)はカラーでも受け付けるが、印刷物を発行する際にカラー印刷にかかる費用は、著者が負担するものとする。

7.図と表は1つずつ別紙に書き、右上端に図・表の番号と著者名を明記する。日本語原稿の場合

合でも、図・表中の言語は、なるべく英語表記することとする。図表は原則そのまま製版できる状態で作成する。表は縦罫線を使わず、横罫線も最小限にとどめる。図・表の大きさは、原則として横 17cm または 8cm，縦は 24cm 以内になることを考慮して作成すること。

8. 本文原稿は Word あるいはテキストファイルで提出し、図表は PDF ファイルに変換する。その際、「フォントの埋め込み」を行い、ファイルのセキュリティ設定は「なし」にすること。

ファイル容量は、10MB 以下にすること。

(2010 年 4 月 12 日制定)

(2014 年 2 月 25 日改訂)

(2017 年 3 月 31 日改訂)

(2024 年 10 月 27 日改訂)